

テキサス 32年ぶりの「大寒波」特集

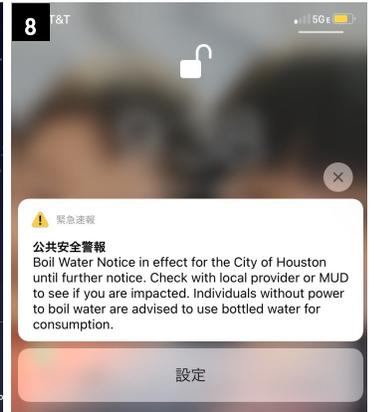
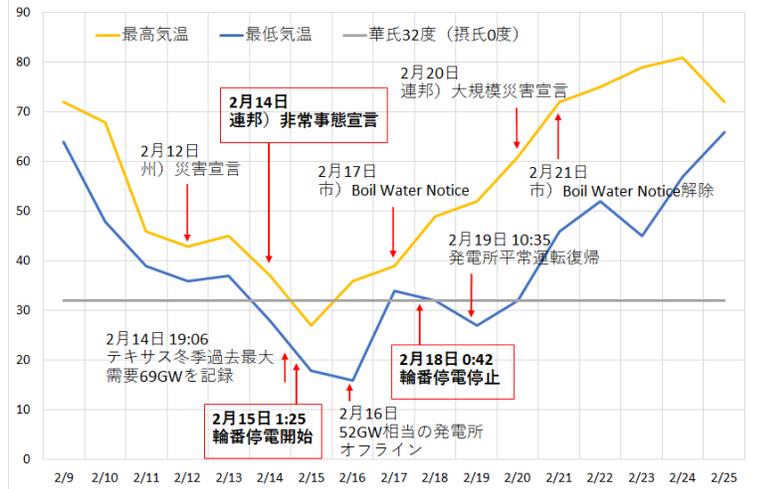
2月15日未明から19日にかけて、米南部及び中西部を記録的な大寒波が襲いました。最低気温はダラスで華氏1度(摂氏マイナス17度)、ヒューストンでも華氏15度(同マイナス9度)を記録し、テキサス全体で470万世帯が停電、14百万人が断水被害に見舞われ、その経済損失は2017年のハリケーンHarveyの約1,250億ドル(約13.2兆円)を超える1,300億ドル規模と推計されています。商工会では会員企業の協力も得てこの被害復興の支援金としてヒューストン市とハリス郡によって設立されたThe Houston Harris County Winter Storm Relief Fundに\$25,000を寄付致しました。

2月25日度理事委員会にて会員企業従業員、事業の被害状況について情報交換を行うと共に個別アンケートを実施し、今後の参考として編集部で被害状況と体験談を取りまとめました。今回の大寒波では州全体の多くの住民が影響を受けたという点が、局地的な大規模被害をもたらしたHarveyと異なりました。よって知人・友人からのサポートを得づらい状況となり、個人による事前の準備が非常に重要であったと言えます。

今回の停電被害は比較的冬場も温暖と言われるテキサス州全体を襲った寒波により、寒さ対策が不十分であった発電所が停止に追い込まれました。中でも州の電力需要の約半分を供給するはずのガス火力発電所への天然ガス供給が生産現場の停止、輸送パイプラインの凍結により滞ったことが長期に亘る大停電の原因とされています。発電所停止により電力供給量が大幅に制限される中で、寒波による暖房需要増加

から冬季過去最大となった需要を賄いきれず、テキサス州の電力網を運営するERCOT(電気信頼性評議会)がブラックアウト(広域大規模停電)を回避すべく輪番停電を実施しました。この輪番停電実施が遅れていればERCOTの送電網全域でブラックアウトとなっていた可能性も指摘されており、病院施設等が停電を阻止することができたのは不幸中の幸いと言えるのかもしれません。

ヒューストン最高・最低気温推移(華氏/2月9~25日)



1. 2月15日朝、ベランダからの雪景色 2. パイプ破裂による天井のしみ 3. 水害の後片づけ 4. 2月26日、枯れてしまった植物 5. 2月15日朝のKaty 6. 1人2点までに販売を限るも、パンが全て売り切れ 7. 午前2時、停電の中この寒さ 8. 突然鳴った、水道水の煮沸勧告アラート

アンケート調査の結果のまとめ (52名の会員様からご回答を頂きました)

被害を受けた会員の割合: 94% (49名)
 内、避難した会員の割合: 20% (10名)… ホテル、知人・友人宅

被害を受けた会員のほとんどが停電、断水被害。その他、7件の水道管の破裂の内、3件が屋根裏での水道管破裂により屋内が浸水被害。また、携帯電話、インターネットの回線不良によりタイムリーな情報収集、従業員、知人・友人の安否確認が行えなかった等。

「準備万端・準備していた」と回答した会員の割合は60% (31名)で、その方々のヒューストン在住期間の平均が5年5ヵ月であったのに対し、「あまり準備していない・全く準備していない」と回答した会員の平均在住期間は2年8ヵ月と約半分であり、テキサスの生活の長い方はハリケーン対策もあってか日頃の備蓄と事前準備に余念がなかったことが分かる結果。



準備していたもの: 水(飲料水、トイレ用含むバスタブ等への貯水)、食料(調理の簡便・不要なもの)、充電、ガソリン給油、カセットコンロ(ボンベ)、懐中電灯、ラジオ、電池、ライター、ろうそく、ランタン(ソーラー式)、薪(暖炉用)、紙皿、紙コップ、割りばし、携帯用トイレ、ドライシャンプー、ラップ、ワイプ、バケツ(貯水用、断水時アパートプールからの水運搬用)、屋外水道管の保護等



体験談・アドバイス

- 近隣住民、友人・知人からの情報は非常に重要かつ有益。水道メーターの水栓を閉じた方がいいとか、居住区域の水道水汚濁最新情報、配管工の同地区集団修理の案内など。
- 携帯電話の回線不調。情報が取れないのと同時に従業員の安否確認も困難。ハリケーン時とは異なる対応が必要。
- 天井裏の水道管が凍結により破裂し屋内浸水被害。戸建ての場合、停電時屋内も雪下となる恐れあり。水道の元栓を締めた後に水道管内の水を排出し、水道管内を空にしておくことで水道管の破裂予防可能。
- 「停電時にガレージから車を出せなかった」との報告複数あり。基本的に手動での開閉は可能なはずなので大家さんに方法をご確認ください。また、家屋と連結したガレージで暖を取る/スマホを充電するなどの目的でエンジンをかけたままにすると排気ガスが屋内に流れ込む恐れあり要注意。

- 暖炉がある場合、使用方法の確認と年に一度の掃除。ガスの開閉/薪の準備/一酸化炭素中毒にならないための開口の確認等。救急病院の方によると、搬送患者は路面凍結による交通事故、一酸化炭素中毒、そして暖を取ろうとした際に発生した火事による火傷等。
- 避難先ホテルの予約と滞在。オンライン予約したにも拘わらずホテル側のシステムダウンによりWalk inの客のみ受け付け、到着時既に満室。ホテルでも停電、断水はある。
- 情報ソース: 地元TVニュース番組のアプリ(KHOU11やABC13)やHouston Chronicle、CenterPoint Energy Outage Tracker、SNSによる情報共有/ニュースソースへのアクセス(Instagram、Facebook、Twitter等)

アンケート結果から、事前準備(自助)に加え被災時の隣人、知人・友人・同僚との情報共有と助け合い(互助)が重要であることを再認識させられました。商工会として今後とも事前準備に役立つ情報中心に会員の方へお届けしたいと考えております。

お役立ちサイトやアプリ

寒波対策について、編集委員や会員の実体験をもとにお役立ちサイトをご紹介します。その他の体験記やQ&A、用語集については、商工会HPの[安全・危機管理情報ページ](#)をご覧ください。
 ※青字の参考リンクは、クリックするとリンク先に移動できます。

アラート: [AlertHouston](#) (ヒューストン市)や[ReadyHarris](#) (ハリス郡)のアプリを入れておくと、地元の緊急ニュースが即入ってくるのでとても便利。

近隣情報: [Nextdoor](#)や住んでいるコミュニティー(Subdivision)のHOA(Homeowners Association)で使用しているネットワークに登録しておくと、近所の詳細なお役立ち&便利情報を入手できるのでお勧め。

交通状況: [WAZE](#)、[HoustonTransStar](#)などはリアルタイムでアップデートされる交通情報入手できるカーナビアプリを提供しているので、車社会のヒューストンでは非常に役に立つ。日頃から自分の行動範囲の裏道を把握しておくことは大切。

TV & 新聞: 地元TVチャンネルの([KHOU11](#)、[CLICK2HOUSTON](#)や[ABC13](#))や新聞社[Houston Chronicle](#)のアプリで 速報(Breaking News)や天気(Weather)の情報を確認可能。

天気予報: [National Weather Service](#)(国立気象局)、[AccuWeather](#) 一日のうちに気温が急変したり、局地的な豪雨や竜巻もあるので、当地では天気予報を確認することが非常に大切。

地元ラジオ: [KUHF 88.7FM](#)、[KTRH 740 AM](#) 停電時には、電池もしくは手回し充電で作動するラジオがあると便利。